授業概要

財務諸表は、貸借対照表や損益計算書といった会計報告書の総称である。財務諸表は、一般に、制度の下で公表される財務諸表を対象とし、その財務諸表が伝える内容は、財務諸表の利用者の関心に適ったものでなければならない。また、財務諸表が伝える内容は、企業の経済活動の記録に基づいた結果であり、その記録内容や結果は、適切に表示されなければならない。したがって、財務諸表論では、財務諸表を作成、表示するための一定のルールすなわち法規や会計基準や、具体的な経済活動とその会計処理について学べるよう講義する。範囲が後半であるために、財務諸表論は、ⅠとⅡに分かれている。

授業計画

第1回	負債会計～社債と資産除去債務
第2回	資本会計～純資産の意義と分類
第3回	資本会計～株主資本
第4回	資本会計～株主資本等変動計算書
第5回	財務諸表の様式と作成
第6回	財務諸表の作成演習
第7回	損益計算の原則と収益認識
第8回	税金～消費税・法人税等・税効果会計
第9回	外貨換算会計の基礎
第10回	連結会計～連結の範囲
第11回	連結会計～資本連結
第12回	連結会計～連結修正消去仕訳の基礎
第13回	連結会計～未実現利益の相殺消去
第14回	連結会計～持分法・包括利益
第15回	まとめ
第16回	定期試験

※ 内容は目安であるため、内容が前後したり、複数回にわたることがある。

到達目標

- ・簿記を含む、具体的な会計処理を理解することができる。
- ・行われている会計処理の背景にある考え方を知ることができる。
- ・開示されている財務諸表の概略を理解できる。

履修上の注意

・公表する財務諸表を対象とした授業なので、簿記検定の範囲でいえば商業簿記2級以上の内容が含まれる。また、授業内容に仕訳を含む。1年次から履修登録が可能である理由は、入学前から簿記会計にかかわる学習経験者がいるためであり、学習経験者以外は、初級簿記および中級簿記を履修した後に登録すること。

予習・復習

- ・予習：テキストの下読み。初級簿記、中級簿記、上級簿記の復習。
- ・復習：参考文献等の簿記演習。

評価方法

- ・定期試験（筆記）で評価する予定である（持込は電卓のみ可）。
（中間テストまたは課題を実施した場合には、中間テスト・課題 40%と定期試験 60%程度とする）
- ・規定の出席回数を満たしていない場合には、原則として、単位を認定しない。

テキスト

- ・浦崎直浩ほか編著『財務会計テキスト』同文館、2,700円＋税（ISBN：978-4-495-21045-8）。なお、春期の「財務諸表論Ⅰ」で使用するものと同じである。
- ・＜参考文献＞渡部他『検定簿記講義 2級商業簿記』中央経済社 900円＋税
毎年改訂されるので、最新版を参照すること。